



JAL不当解雇撤回ニュース

No215号 2012.11.03
発行:JAL解雇撤回国民共闘事務局
連絡先:航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.co>

ココロもオナカも幸せいっぱい！

亀戸

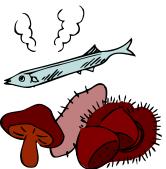
団

結

ま

つ

り



10月28日亀戸中央公園



首切り自由の社会を作らない！雇用は正社員であるべきです。私たちもがんばります。皆でがんばりましょう！



秋の足音が駆け足でやってきた10月28日の日曜日、亀戸中央公園で、恒例の団結まつりが開催されました。時折雨が降る、生憎のお天気でした。でも原告団は悪天候に慣れています。

「とめよう雇用破壊、なくそう非正規」をスローガンに午前10時から午後3時まで、闘争団の訴え、歌や踊りなど、多彩なプログラムが繰り広げられました。

会場では、北海道から蟹や鮭、ジャガイモ、玉ねぎが破格のお値段で販売され、千葉からはトマトなど野菜が並べられ、さながら築地や大田市場が亀戸中央公園に引っ越してきたようなにぎやかさでした。さらに新潟や、被災地福島から、地酒の一升瓶が並び、焼き鳥、焼きそば、おでんなどで、オナカは満腹。原告団も20名が参加してワインとおつまみ、ストラップやキーホルダーなどの物販をしました。原告団の訴え時間は午前と午後の2回用意していただき、いつものように、元気よく、山口団長の声が響きわたりました。

午後の争議団紹介の部では、原告団の鈴木事務局次長が、裁判の状況を説明しました。お祭りの最後に原告団から依田さんが決議文を声高らかに読み上げ、ガンバローの三唱で閉会となりました。



ゆるすな再稼働 なくそう原発！ とめよう雇用破壊！

つくろう 戦争と貧困のない社会を！

10. 28団結まつりアピール

昨年の3. 11東日本大震災・福島原発事故は、日本社会の在り方を根本から変えていく契機となりました。史上最悪の福島原発事故と止まることがない「放射能汚染」の拡大による「総被ばく時代」の中で、命を守る、社会を変える闘いが多様な形で広がり、つながりだす転機ともなりました。一時的ではあれ、すべての原発を停止に追い込み、大飯原発再稼働を強行した野田政権に対する闘いが持続的な首相官邸前行動に広がり、未来の世代の命を守るために原発の即時停止・廃止を求める大きなうねりとなっています。

私たちは、原発が命を切り刻む「被ばく労働」と使い捨ての「非正規労働」によってしか成り立たないことを見据えて、原発の即時停止・廃止を求めます。

震災・原発事故を口実にした「解雇」や労働条件の一方的な切り下げなど「雇用破壊」もますます広がっています。全労働者の3分の1が非正規の不安定雇用を余儀なくされ、年収200万円以下の労働者が1000万人を超える今日の貧困と格差社会を生み出したのは、労働者派遣法の制定を端緒とする雇用破壊にあります。こうした中で、野田政権・国家戦略会議は「30歳・40歳定年制」「雇用は有期を基本とする」とした国家戦略会議報告を確認し、雇用総破壊路線を打ち出しました。パナソニックPDP最高裁不当判決以降「派遣労働者に守るべき権利はない」という不当判決が、いすゞ・ホンダをはじめ「偽装請負」「違法派遣」と闘う裁判で次々と出され、JAL解雇撤回裁判でも「事業再建中」の解雇は整理解雇の4要件を適用しないとする不当判決が出されました。雇用だけでなく社会保険、医療、年金といった社会保険制度から排除される社会を変え、人間らしい働き方を実現させていくために、国鉄闘争を継承し、JAL解雇撤回をはじめすべての争議勝利と非正規労働撤廃、オスプレイ配備撤回をはじめ平和と民主主義の実現をめざすあらゆる闘いと連帯し、戦争と貧困のない社会をつくりだす闘いを今こそ広げなければなりません。

期間の定めのない雇用と同一価値労働同一賃金の実現が、あってはならない貧困を解決させる私たちの対案だ！根っこはひとつ！グローバル資本主義に対抗する世界の労働者市民とともに、戦争と貧困のない社会を創りだそう。原発の再稼働を許さず即時停止・廃止させよう！

2012年10月28日

10.28 団結まつり参加者一同